

# Annual Report 2020

## 2020年度年次報告



特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

# 代表理事挨拶

新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックもワクチン接種が始まり、徐々にではありますが、希望の光が見えてきたようです。ただ、WHO（世界保健機関）は、2017年に抗生物質が耐性菌によって効能を失うと発表。これにより3密と不衛生な状況でパンデミックが起り、開発途上の都市部を発生源として世界中に蔓延する可能性を示唆しています。

人類は、これまでもペストやコレラ、スペイン風邪など、多くのパンデミックに襲われてきましたが、これらを教訓として、今後、備えていく必要があるようです。

また、現在、コロナの問題に直面しつつも、世界が抱える大きな課題があることも事実です。2015年国連サミットで採択された17のゴール・169のターゲットからなる「SDGs」です。これを達成しなければ、世界の持続的な安定は保てないということです。

本協会は「国際協力」「環境保護」「地域活性化」「災害救援」「子どもの教育支援」の5分野を柱として、今年29年目を迎えました。これまで行ってきた事業は5,614事業、この事業への参加者数は133,788名となりました。近年はこれらの活動のベースとして「SDGs」を強く意識して活動を行っています。

昨年はコロナの影響により、会員数は減少しましたが、全国83大学の学生2,443名が在籍しています。会員はそれぞれ30のクラブに分かれ、クラブが存在する地域でも活動を行いながら自主運営を行っています。

また、昨年は本協会が主催する大規模な活動はほぼ中止しましたが、ソーシャルディスタンスを守りながら小規模な活動を288事業実施し、2,134名が参加。そして、新たに始めたオンラインでの活動は233事業と急拡大し、3,209名の会員が交流などを行いました。コロナ禍の中、歯がゆい一年となりましたが、学生たちは限られた環境の中でやれることを模索して活動を行いました。

現状、学生たちは授業や会議、さらに交流（コミュニケーション）が、オンラインになってしまったことで、人との出会いが狭まり、直接人にふれあう機会が激減しています。本来、多感な学生たちは人との出会いによって人間関係や友情を育み、互いの信頼関係を築き、共に努力することで成長を遂げることから、その機会が減少したことに危惧を覚えています。

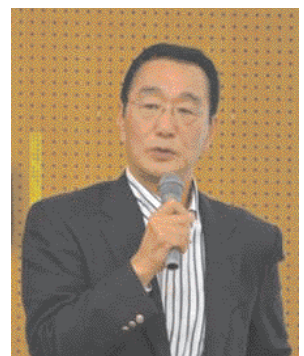
本協会はそもそも、人との出会いを大切にしてきた団体です。インターカレッジであることから地域を超えた大学の学生同士の出会いがあります。また、実施する活動は幅広く、様々な人種、価値観、世代を超えた出会いがあり、その人たちと交流する場があります。

そして、これらを円滑に行うため、全会員に対して行うリスクマネジメント講習、そして人間関係を円滑に行うためのコミュニケーションやマネジメントに関する研修、ロジスティクスに関する研修、社会に関する理解を深める研修、さらに学生の個性に合わせた研修なども行っています。

これらを身に付けた学生たちが自ら組織を運営し、プロジェクト運営を行っているのです。彼らは、自己成長や自己実現をベースに様々なことに挑戦しながら、大きく成長しています。これら会員の成長をサポートすることも、本協会の大きな事業目的となっています。

2021年度も、「SDGs」を強く意識し、やれることを模索しながら、前に進んで参ります。皆様には、本協会の事業目的にご理解をいただき、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会  
代表理事 下村 誠



# IVUSA とは

---

IVUSA(International Volunteer University Student Association)の前身は、1992年に国士舘大学で行った“夢企画”です。これは、学生たちが、創造力を活かし、夢を組み立て実行するというもので、「勇気」と「冒険心」と「遊び心」を持った夢を募集し、実現性、独創性、意気込みを含めて大学が審査し、その実行を大学がサポートするというものでした。学生の「夢」は様々な分野にわたっていましたが、中でも社会に貢献したいという企画が多くありました。

その中の「ラオス小学校建設活動」「多摩川清掃大作戦」「北海道南西沖地震災害救援活動」などに参加した学生たちの、「もっと活動をしたい!」という熱意で、IVUSAは組織化されました。

その後口コミで様々な大学の学生がIVUSAの活動に参加するようになり、会員の増加と共に活動の幅も広がりました。現在では、約80大学・2,400名の学生が、「国際協力」「環境保護」「地域活性化」「災害救援」「子どもの教育支援」の5つの分野を軸に活動をしています。

現在、紛争・テロ、気候変動・環境破壊、貧困・経済格差、地域コミュニティの疲弊、多発する災害など国内外で多くの課題があります。IVUSAは学生というニュートラルな立場を活かし、様々なセクターを繋ぎながら課題解決に取り組むとともに、活動を通じた学びの場を学生に提供しています。

そして、活動を通して多くの国・地域の多様な人たちとの繋がりを作ることで、「共に生きる社会」の実現を目指し、国連が定めた「持続可能な開発目標 (SustainableDevelopmentGoals=SDGs)」の達成に貢献していきます。

## 目次

---

P2 . . . . 代表理事挨拶

P3 . . . . IVUSA とは

P4 . . . . 2020 トピックス

P6 . . . . 事業紹介

P13 . . . . 助成・協力団体紹介

P14 . . . . 会計報告

P15 . . . . 団体概要





# 2020トピックス①

## ○オンライン事業、小規模活動の実施

2020年3月、春の活動は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現地からの活動自粛の要請などもあり、中止の判断をしました。4月7日には、7都府県に緊急事態宣言が発令。その後、全国に拡大しました。例年、4、5月は新入生を対象に、新しい仲間を募る時期でしたが、それもできず、活

動の自粛、オンライン授業への移行などにより、多くの学生はステイホームを余儀なくされました。2020年度は、活動形態をオンラインへ移行するとともに、清掃活動をはじめとする3密を避けた小規模での活動を実施しました。

これらの対面での活動を実施する際のガイドラインを作成し、対面活

動に参加する際の留意点や、活動実施基準について会員へ周知しました。

なお、ガイドラインは、Covid-19(新型コロナウイルス)の感染状況や政府方針にあわせて、その都度見直しをしています。

## ○第6回学生団体総選挙で総合グランプリを獲得

株式会社賢者屋主催の第6回学生団体総選挙に出場しました。学生団体総選挙は、全国の学生団体・部活動・サークルを表彰するコンテストで、一番応援したい団体を決めるものです。

全国から1,809団体のエントリーがありました。本協会はカンボジア教育支援活動にスポットを

当ててプレゼンテーションしました。

カンボジアが抱える教育問題に対して学校建設を通じ継続的に取り組んできたこと、今後もカンボジアの子どもたちが夢を諦めず学び続けられる環境を作るために、自分たち日本の若者ができることを考え、行動し続けていきたいという想いを伝えたことで、私たちはインターナショナル部

門のグランプリをいただき、その後、10部門のグランプリが集うファイナルのプレゼンテーションで、総合グランプリをいただくことができました。



## ○日野市社会福祉協議会と「ボランティア活動並びに地域福祉活動相互連携協定」締結

本協定は、東京都日野市でのボランティア活動や地域福祉活動において、両者が連携協力することで、社会課題の解決に向け挑戦し、より豊かで活力のある地域を築いていくことを目的としています。

オンラインで調印式を行い、日

野市社会福祉協議会の奥住日出男会長と、下村誠代表理事が協定書に署名しました。今後、平時の地域コミュニティ活動や防災・減災に関する活動だけでなく、災害時のボランティアセンター運営支援など、様々な面で日野市社会福祉協議会と連携を進めていきます。



## ○Youth for the Blue2020

海ゴミ問題に対して大学生を中心とするユースがアクションを起こしていくキャンペーン「Youth for the Blue 2020」を、日本財団「海と日本 PROJECT」の助成を受けて実施しました。

年間を通じて、会員の居住地やクラブがある地域などの様々な場

所で実施し、延べ941名が参加しました。また、海ゴミ問題に関するワークショップを2回実施し、89名が参加しました。海ゴミ問題に対する知識を学び、自分たちに何が出来るかを考える機会になりました。



# 2020トピックス②

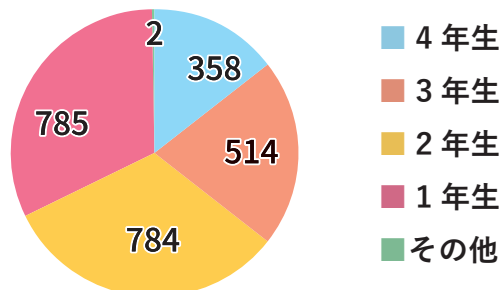
## 会員数

2,443 名

## 大学数

83 大学

### 学年別の会員数



## 実施事業数

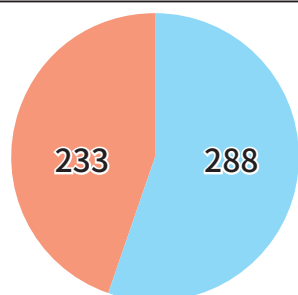
### 総事業数

521 本

### 参加者数

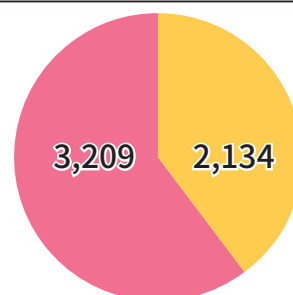
5,343 名

#### 事業数



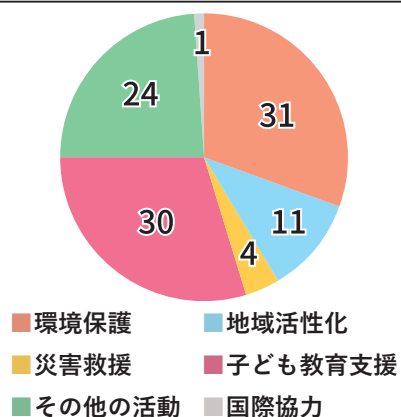
■ オフライン ■ オンライン

#### 参加者数

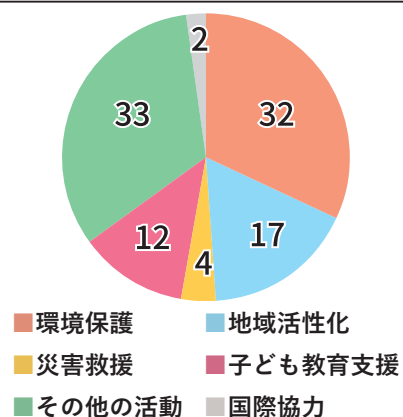


■ オフライン ■ オンライン

#### 分野別の事業の割合



#### 分野別の事業参加者割合



# 国際協力

## ■事業ポリシー

貧困、テロや紛争、格差、感染症、環境問題…など、世界を見回してみると、多くの問題があります。これらは、日本に住む私たちには他人事のように見えますが、グローバル化が進んだ現在、決して私たちと無関係ではありません。世界の動きは、私たちの日常生活にダイレクトに影響を及ぼすようになっていきます。だからこそ世界が抱える課題に対し、政府・企業・市民社会などが一丸となって取り組んでいくことが必要です。

本協会では、「現地の人のために何ができるか」を考え、現地の人々とできるだけ同じ目線に立った活動を目指しています。そして、草の根レベルでの直接的な交流で生まれる現地の人々との絆が国際協力では重要だと考えています。

また、募金活動やイベントを通し国内でも様々な支援活動を行い、多くの支援者の方の気持ちを現地に届けていきます。

## ■ 2020 年度活動

事業名	活動日程	活動場所	従事人数	受益者の範囲及び人数
カンボジア教育支援活動 オンライン贈呈式・活動報告会	2月16日	オンライン	12名	西伊豆町賀茂中学校の生徒と教職員など約50名
フィリピン防災・環境美化活動（清掃活動、防災ワークショップ）	9月5日、 2月28日	オンライン	延べ20名	フィリピンの大学生延べ18名

## PickUp

### ■カンボジア教育支援活動 西伊豆オンライン活動報告会

2月16日にカンボジア王国から贈られた感謝状の贈呈式と、カンボジア教育支援活動報告会をオンラインで行いました。

この感謝状は、西伊豆町の小中学校がカンボジアの小学校に文房具を継続的に寄付していただいたことに対し、カンボジア王国より贈られました。

学生10名はオンラインで参加し、西伊豆町では賀茂中学校の生徒と教職員など約50名の方々にお集まりいただき、「文房具の寄付に対する感謝」と「夢」をテーマにこれまでの本協会の活動紹介やカンボジアの子どもたちの様子について発表し、報告会後に感謝状贈呈式を行いました。



# 災害救援

## ■事業ポリシー

日本は地震・高潮・台風・水害・豪雪・火山噴火・竜巻などが発生する災害大国です。そして、近年は地球温暖化の影響により、豪雨や台風の想像を超える激甚化・広域化が大きナリスクとなっています。

本協会では、1993年の北海道南西沖地震から、国内外の災害に対し復旧・復興支援活動を行ってきました。その中では、災害現場で学生が汗を流し活動することで、喪失感に包まれている被災者の方の復興に向かおうとする気持ちを後押しすることを大切にしています。

災害からの復旧には大きなマンパワーが必要となります。災害ボランティアの不足も指摘されている中、私たちは今後もできるだけ現場で活動するとともに、全国の高校生や大学生とのネットワーク（ノウハウ提供など）を平常時から構築する事業を新たに加え、より効果的な災害対応を目指していきます。

## ■ 2020 年度活動

事業名	活動日程	活動場所	従事人数	受益者の範囲及び人数
東日本大震災復興支援活動	3月10日～13日	宮城県亶理郡山元町	4名	活動地域の住民
東日本大震災復興支援活動オンライン	2月18日、2月21日、 3月6日、3月7日、 3月12日	オンライン	延べ21名	参加者延べ203名
令和2年7月豪雨災害救援活動	8月22日～26日、 9月9日～14日、 9月23日～29日	熊本県球磨郡球磨村	延べ14名	活動地域の住民
減災ファクトリー（ワークショップ・動画配信）	通年	オンライン	延べ20名	イベント参加者延べ101名
世田谷区防災塾など地域防災活動 （防災ワークショップ、地域の防災計画作りの支援）	通年	東京都世田谷区、 オンライン	1名	地域住民

## PickUp

### ■令和2年7月豪雨災害への取り組み

令和2年7月豪雨は、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した豪雨災害です。

これまで34回募金活動を実施し、計196名の学生が参加しました。皆様からお預かりした募金を9月18日に日本赤十字社と熊本県球磨村に寄付しました。

募金額と内訳：日本赤十字社 283,448円

熊本県球磨郡球磨村 200,000円

作業内容：家屋内や庭などの土砂撤去、家財の運び出し、壁や床板の除去など

熊本県球磨村から要請を受けた日本財団が、重機作業を中心とするボランティア派遣プログラムを実施し、

そのメンバーとして3回現地入りしました。

本協会は、2003年の水保豪雨水害や、2016年の熊本地震やその後の土砂災害などに対する救援活動として、熊本県にて活動しました。

球磨村は林業が主要産業の一つであり、製材所に設置されている機械周辺の狭いスペースに堆積した土砂を取り除くためには、人手が求められました。一方で、取り除いた土砂の運搬や、廃棄する機械の不要な部分の切断などには重機やエンジンカッターなどの道具が活躍するため、技術系のボランティアの方たちとの連携・役割分担をすることで作業の効率性を高めた活動を心がけました。





# 環境保護

## ■事業ポリシー

今日の人類の生活の利便性と引き換えに、気候変動（地球温暖化）や砂漠化、森林破壊など多くの環境問題を抱えています。大量生産・大量消費・大量廃棄を前提にした社会のシステムや私たちの生活様式、文化を見直し、「持続可能な開発」を進めていくことが求められていると言えるでしょう。

本協会では、国内の身近な場所から国境を越えた世界各地でも地球環境保護のために学生ができることを行っています。

ただ環境美化や植林を行うだけでなく、活動に参加した学生と地域の方との交流や活動の参加を通して、参加した学生や社会の環境保護に対する認識や理解を深めていくことを目指します。

特に清掃活動においては、「拾う心より、捨てない心」をコンセプトに、ゴミ拾いを通して「ゴミを捨てない」「ゴミを減らす」ライフスタイルを広げていきます。

## ■2020年度活動

事業名	活動日程	活動場所	従事人数	受益者の範囲及び人数
長野県北信地域森林整備活動（オンライン交流会）	3月16日	オンライン	13名	参加者9名
京都府阿蘇海環境づくり活動 高校生へのオンライン授業	2月24日	オンライン	4名	丹後緑風高校久美浜学舎の生徒33名
京都府阿蘇海環境づくり活動 宮津市スタディツアー	3月23日	京都府宮津市	1名	参加者5名
千葉県印旛沼清掃活動（オンライン交流会）	5月18日、12月6日	オンライン	延べ8名	イベント参加者延べ35名
琵琶湖湖岸清掃活動	3月16日	滋賀県米原市、長浜市	60名	活動地域の住民
河川・地域清掃	通年	全国各地	延べ941名	活動地域の住民
海ゴミ問題に関するワークショップ	7月19日、9月13日	オンライン	2名	参加者延べ89名
コスプレ de 海ごみゼロ大作戦 2020 at 東京タワー運営補助	9月12日	東京都港区	14名	イベントの参加者及び活動地域の住民
長野県飯田市天竜川驚流峡復活プロジェクト（オンライン勉強会・交流会）	6月22日、3月13日	オンライン	延べ14名	イベント参加者学生延べ14名、飯田市民延べ6名
竹林整備活動（「こどもの国」の園内整備）	10月11日、11月21日、12月13日	神奈川県横浜市	延べ42名	「こどもの国」の施設利用者
川づくりに関するフォーラム	11月14日、2月7日	オンライン	5名	イベント参加者
特定外来生物オオバナミズキンバイ除去活動	9月27日、10月25日、11月1日、11月8日、11月9日、11月28日、12月26日	滋賀県の琵琶湖沿岸各市、京都府	延べ137名	活動地域の住民

## PickUp

### ■外来水生植物の除去活動、及び啓発活動

コロナ禍で大規模なボランティアの実施が難しくなっている中、滋賀県・京都府で特定外来生物オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）の除去活動やフォーラムでの啓発活動などを定期的に行いました。オオバナは繁殖力がとても強く、2013年ごろから琵琶湖を中心に大繁殖して大きな問題となっています。関係機関と連携しながら継続して除去活動を続けてきた結果、生育面積は減少傾向に転じましたが、繁殖地点数は増えており、京都府や大阪府にも生育範囲を広げています。

拡散したオオバナが大規模群落に成長する前に発見し、早期除去することが非常に重要であるため、オオバナの脅威を多くの人たちに認知してもらうことを目的としたフォーラムでの発表や、オオバナの問題をわかりやすく解説した子ども向けのリーフレットの作成などにも力を入れました。

また、地元企業が主催するオオバナの除去活動では、他の植物との見分け方や作業をする際の注意点など、本協会が蓄積してきたノウハウを提供することで活動の協力をさせていただきました。

コロナ禍で、学生たちに何ができるのかを考え実践し、学生たちが持つパワーを活かして生態系保全のために活動していきます。





# 地域活性化

## ■事業ポリシー

都市部への人口流出に伴い、地域の担い手や産業の後継者の不足（耕作放棄地の増大）、医療や介護の負担の増加、里山をはじめとする自然環境の悪化などの問題が深刻化しており、消滅の危機にある地域も数多く存在しています。

また、経済面においても自治体の財政面においても都市部に依存する構造が常態化しています。

そこで本協会は過疎化が進んでいる地域を中心に、祭りの運営支援や農業支援などを行いながら地域づくりを進めてきました。この活動は、会員の「故郷を何とかしたい」「出会った人や地域を盛り上げたい」「農業をやってみたい」「田舎暮らしがしたい」「災害救援に入った地域で継続して活動したい」といった思いと、そこに住む人との縁によって成立しています。

今後は、課題解決のための新たな事業モデルの開発を通し、より持続可能な地域づくりに貢献していきます。

## ■2020年度活動

事業名	活動日程	活動場所	従事人数	受益者の範囲及び人数
岡山県備前市活性化活動（オンライン交流会）	2月10日、2月13日	オンライン	延べ11名	イベント参加者延べ12名
長野県飯山市活性化活動（オンライン交流会）	3月14日	オンライン	2名	イベント参加者学生19名、市民8名
新潟県関川村活性化活動（オンライン交流会）	3月18日	オンライン	4名	イベント参加者（学生6名、OBOG3名、村民約15名）
三重県熊野市活性化活動（オンライン交流会）	3月14日	オンライン	25名	地元企業2社、イベント参加者24名
静岡県西伊豆町活性化活動（オンライン交流会）	7月23日、12月10日、1月30日、2月28日	オンライン	延べ83名	イベント参加者延べ29名
静岡県西伊豆町活性化活動	3月22日～24日	静岡県賀茂郡西伊豆町	31名	町民

## PickUp

### ■春くまるしえ～学生が熊野市のまるしえを作ってみたら～

対面での活動が難しい状況の中、「オンラインツールを活用して熊野市の地域活性化につなげていけるようなものをつくろう」という学生の声から、オンライン上で学生が熊野市の事業者の方々と一緒に商品や地域の魅力を一般の方向けにPRする『春くまるしえ～学生が熊野市のまるしえを作ってみたら～』を企画、実施しました。今回は第1回目として今後の企画の発展につながる知見を集めるための試行と位置付けて取り組みました。

地域を訪問することができない中でも、オンラインツールの活用がより広がっていくであろう未来に向け、若者だからこそできる地域活性化への貢献の仕方について今後も模索していきます。

#### ▼実施した内容

##### (1) 学生目線での魅力発信セミナー

学生がなぜ熊野市に行き続け、熊野市の活性化に取り組み続けるのか。そこに、来場者にお伝えすることで知っていただける熊野市の魅力があると考え、学生目線から見た熊野市の魅力や、熊野市での活動に対する熱意を発信する企画として実施しました。

##### (2) 事業者と発信するオンライン市場

熊野で生まれ製造された商品を愛し、“生業とし

て製造し続けてきた地元業者様の想い”と、“よそ者学生が感じた魅力”という2方向からの魅力を来場者に伝え、地元産業の活性化につなげることを目指して実施しました。

##### (3) 一人称視点で疑似訪熊体験

熊野の著名な観光スポット巡りを体験するオンラインツアーを行いました。山・川・海という自然に囲まれた熊野市の大きな魅力の一つである海産物の漁法のひとつである定置網漁、日本棚田100選のひとつでもあり市民に守られてきた棚田・丸山千枚田、熊野市の夏の一大イベントである10万人以上の観光客が訪れる場・熊野大花火大会の3つを紹介しました。



# 子どもの教育支援

## ■事業ポリシー

児童虐待、子どもの貧困、教育格差、地域社会からの孤立など、現在、日本の社会には子どもを取り巻く数多くの多様な問題が存在しています。

これらの問題は、同じ「将来世代」であり、近い将来に自らも親になる者が多い学生にとっても無関係ではありません。

本協会では、子どもたちと年齢の近い「お兄さん」「お姉さん」のような存在であることを活かし、子どもたちの夢や未来のために、学習支援活動や子どもたちの自己肯定感を育むことを目的とした交流支援活動、防災学習などに取り組んでいます。

その中でも、子どもたちがリスクに対する対応力を身に付けていくことに力を入れています。

## ■2020年度活動

事業名	活動日程	活動場所	従事人数	受益者の範囲及び人数
子ども向け教育支援事業 (生活困窮家庭の子どもへの学習支援)	通年	京都府京田辺市、滋賀県大津市、大阪府泉大津市	延べ325名	京田辺市の小中高高校生(延べ36名)、泉大津市の中高校生(延べ70名)、大津市の中学3年生(延べ147名)
京都市だいが地域若者応援隊事業	9月19日、9月26日、 10月24日、10月31日、 11月28日、12月23日、 1月23日、3月20日、 3月27日	京都府京都市 醍醐地区	延べ59名	京都市伏見区醍醐地区の一人親家庭を中心とした世帯の子どもたち
新潟県長岡市双葉寮オンライン学習支援	通年	オンライン	延べ164名	児童養護施設双葉寮の子どもたち延べ135名
三重県熊野市の子どもたちとの異文化体験交流会・ 減災チャレンジワークショップ	8月19日、8月21日、 3月6日	オンライン	延べ42名	熊野市・御浜町の学童利用児童 延べ70名
子どもの教育支援に関するワークショップ(子ども会)	12月27日、3月20日	オンライン	延べ6名	イベント参加者延べ19名

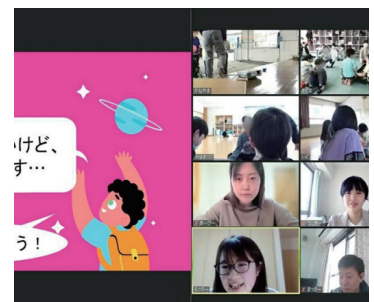
## PickUp

### ■三重県熊野市の子どもたちとの異文化交流会・減災チャレンジワークショップ

三重県熊野市と御浜町の学童クラブの子どもたちに向けて、「減災」をテーマにしたオンラインワークショップを行いました。約1ヶ月かけて「災害が起きたらどうするか」「災害が起こる前に備えられること」「自分たちにも出来ること」の3テーマで、子どもたちに楽しんで理解してもらえるよう試行錯誤して企画・準備をしました。当日は小学校低学年から高学年まで約50名の子どもたちが参加し、ゲームやクイズを織り交ぜた企画を楽しんでくれました。子どもたちは企画を通して自分たちの考えを発表するなどして真剣に減災についても考

えてくれました。

コロナ禍前には対面での防災キャンプを実施していましたが、子どもたちの体験機会も減少をしている中、オンラインでも楽しみながら学ぶことのできる形を見出すことができました。



### ■児童養護施設の子子どもたちへの学習支援

本事業では勉強を教えることによって学力を向上させることだけでなく、学生と子どもたちとのかわりを通して、子どもたちが自分の力で未来を切り拓くための学びの場とすることを目指しています。

児童養護施設に入所している子どもたちには、虐待や貧困、保護者の死亡や失踪などのバックグラウンドがあります。そういった子どもたちに対する継続的・定期的な学習支援を通して、子どもたちのできることが増えること、正解をしたら都度賞賛をすることで自己肯定感や自己効力感の回復につな

がる可能性を秘めた場となっています。

コロナ禍前においては遠隔地にある児童養護施設に対して年に2回しか支援ができていませんでしたが、オンラインに変更したことで延べ135名の小中学生に対して計38回の活動を実施し、日常的な支援の形を見出すことができました。



# その他の事業

## ■事業ポリシー

本協会では「国際協力」「環境保護」「地域活性化」「災害救援」「子どもの教育支援」の他にも、今社会で起きている課題（ニーズ）を解決するための事業を生み出し、継続させています。

特に参加する学生がその社会の課題を「自分ごと」と捉えていく学びの場を提供することを重視するとともに、ボランティア活動や市民活動をさらに活性化させていくことを目指します。

## ■2020年度活動

事業名	活動日程	活動場所	従事人数	受益者の範囲及び人数
沖縄県戦没者遺骨収集事業	9月22日～10月7日、 11月17日～12月2日	東京都小笠原村 硫黄島	2名	戦没者遺族
世田谷区市民活動支援コーナー運営	通年	東京都世田谷区	延べ12名	世田谷区民延べ約6,500名
オンライン活動報告会2020	5月24日、31日	オンライン	延べ178名	
29期キックオフ会	3月5日	オンライン	18名	参加者283名
各大学クラブに対するサポート(運営・企画立案などの助言)	通年	全国各地	延べ10名	大学生約2,500名
キャリアサポートイベント	12月5日、12月12日	オンライン	延べ5名	参加者延べ71名
Salon de CMI~ オンラインワークショップ~	5月19日、6月21日、6月23日、 7月28日、8月28日	オンライン	延べ6名	参加者延べ152名
会員同士のオンライン交流会	10月29日、11月25日、 12月18日、1月30日、2月28日、 3月1日～14日、3月30日	オンライン	延べ55名	参加者延べ384名
ソーシャルサロン	8月～3月	オンライン	延べ66名	参加者延べ300名
公式ホームページ運営	通年	事務所	3名	不特定多数の市民
広報誌「WE DO MORE」発行	令和2年5月	事務所	15名	活動先の関係者約1,000名
年次報告書発行	令和2年6月	事務所	3名	不特定多数の市民

# PickUp

## ■キャリアサポートイベント 職コン2020

12月5日、12月12日に学生と企業のマッチングイベント「職コン2020」を実施しました。22卒の大学3年生を中心に5日は42名、12日は29名の学生が参加しました。また各日程で4社の企業の方々にご参加いただきました。

例年は会場を借りて対面で実施しておりましたが、今年はコロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの実施となりました。

イベント当日は4つのグループに分かれて、各企業の担当者の方から企業概要や事業紹介、参加した学生からの質問に対してお話しいただいたことで、企業理解を深めたり、働くことに対する不安を解消する場と

なりました。

コロナ禍でできることは限られていますが、今後も様々な工夫をして学生にとっても、企業の方々にとっても有意義な場を提供できるようにしていきます。

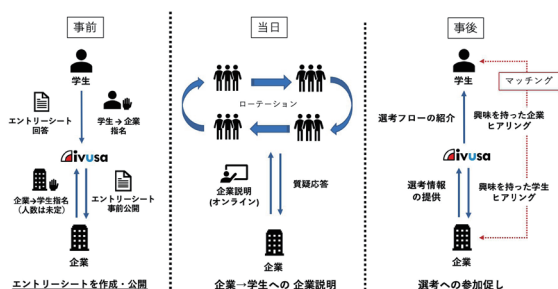
### ●参加企業

#### 12月5日

ヤマトホールディングス株式会社、ロングライフホールディング株式会社、三菱電機株式会社、株式会社KOKUA

#### 12月12日

ヤマトホールディングス株式会社、ロングライフホールディング株式会社、三菱電機株式会社、近畿環境保全株式会社



# 研修

## ■研修の目的

本協会に所属する多くの会員は大学生です。数年後には社会人となり、世界や日本、地域社会の担い手になります。そこで、本協会では、【大学生生活 = 社会人になるための準備期間】と位置づけ、社会で輝ける人材の輩出を目指し、様々な研修を実施しています。

ボランティア活動は、何らかの形で社会に貢献するために行われます。そのためボランティア活動においては、なにより「相手の立場に立って考え、行動する」ということが基本であり、多様な人たちと円滑にコミュニケーションをしていくことが求められます。

また、会員は自らが希望する場合、ボランティア活動の企画・準備・実行などの活動の運営や、クラブ（学生が自主運営する地域ごとのグループ）の組織運営なども担うことができます。

それらを実行するためには、地域のニーズ把握やカウンターパート（受入先）との調整、交渉、チームビルディング、リスクマネジメント、情報発信など幅広いスキルとノウハウが求められるため、それらを学ぶ研修を実施しています。

研修で学んだことを、実際に活動やクラブの運営などで実践し、会員同士でふり返りを行い、より良くするための改善点や改善方法などについて情報共有をします。そして、また実践していき、ステップアップのために必要な研修を受けます。このサイクルを通し、自分自身や他者を理解すること、社会人として必要な心構えやスキルなどを身に付けます。

## ■2020年度活動

事業名	活動日程	活動場所	従事人数	受益者の範囲及び人数
スタートアップ研修	通年	オンライン	延べ50名	参加者延べ1,403名
スタッフ研修	通年	オンライン	延べ78名	参加者延べ533名
マネジメント研修	通年	オンライン	延べ1名	参加者延べ297名
災害ボランティア入門	8月28日、9月15日、3月19日	オンライン	延べ2名	参加者延べ29名
時事問題勉強会	通年	オンライン	延べ27名	参加者延べ185名
ロジスティックスマイスター講習	9月7日、9日	オンライン	延べ4名	参加者延べ22名
インストラクター講習	5月~7月	オンライン	延べ10名	参加者延べ68名
社会理解研修	通年	オンライン	延べ21名	参加者延べ184名
各種実務研修	通年	全国各地	延べ10名	参加者延べ245名

## PickUp

### ■災害ボランティア入門講座

昨年より新設されたプログラムで、災害ボランティアに取り組むきっかけとして、過去28年間の災害救援活動で培ってきたノウハウや経験をもとに作成し、災害救援活動に参加したことがない人でも、気軽に学ぶことのできるプログラムになっています。

▼大学のボランティア支援室からのご依頼により実施しました。

#### ○同志社大学「災害ボランティア入門講座」

日時：2020年8月28日（第1部）、9月15日（第2部）

参加者：同志社大学生10名

内容：第1部

- ・そもそもなぜ日本は災害大国なのか
- ・地震・台風・洪水などの災害リスクからどう身を守るのか

第2部

- ・災害ボランティアに取り組む際の心構えや必要な準備
- ・実際にボランティアとしてどんなことをお手伝いさせていただくのか

#### ○東洋大学「避難所運営させてもらえませんか？～オンラインで学ぶ避難所運営ゲーム～」

日時：2021年3月3日

参加者：ボランティア支援室職員、東洋大学生計24名

内容：HUG（避難所運営ゲーム）をオンラインで体験し、自分が被災したとき、避難所の運営に参画する時に大切なことは何かを学ぶ。避難所運営で大切なこと、スフィア基準についてなど講話

- ・オンラインHUGの体験
- ・ブレイクアウトルームに分かれての意見交換

#### ▼講座のご依頼について

受講される対象者によって講習内容や所要時間のカスタマイズも可能です（※オンラインでの実施も可）。ご予算に応じたご提案もさせていただきますので、お気軽にお問い合わせください。



# 助成

一般財団法人セブン-イレブン記念財団  
公益財団法人日本財団

特定非営利活動法人市民協働ネットワーク長岡

## 協力団体

### <法人会員>

三菱電機株式会社  
太平ビルサービス株式会社

### <国際協力>

#### 【カンボジア教育支援活動】

KHJConstructionCo.Ltd、静岡県西伊豆町の皆様

#### 【フィリピン減災・環境保全活動】

デ・ラ・サール大学、KADRE、小倉ノエミ、フィビ・  
ゴンザガ・ガレネエロ・レセカンド

### <環境保護>

#### 【Youth for the Blue 2020】

公益財団法人日本財団、特定非営利活動法人荒川クリーン  
エイド・フォーラム、特定非営利活動法人環境パート  
ナーシップオフィス

#### 【京都府阿蘇海環境づくり活動】

京都府丹後広域振興局、京都府立丹後緑風高校久美  
浜学舎、京都府宮津市立吉津小学校、一般社団法人  
Tangonian、カミヤヅラボ、上宮津地区、平木志乃、本  
藤靖

#### 【千葉県印旛沼クリーン大作戦】

鹿島川土地改良区印旛土木事務所、特定非営利活動法人  
環境パートナーシップちば

#### 【特定外来生物オオバナミズキンバイ除去活動】

琵琶湖外来水生植物対策協議会、滋賀県庁、国土交通省  
近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、守山市役所、玉津小  
津漁業協同組合、関西広域連合、淡海の川づくりフォー  
ラム実行委員会、特定非営利活動法人エコネット近畿、  
認定特定非営利活動法人びわこ豊穰の郷、赤野井湾再生  
プロジェクト、イオン同友会、近江ウェットランド研究  
会、京都府庁、鴨川を美しくする会、一般社団法人鴨川  
流域ネットワーク

#### 【長野県飯田市天竜川鷺流峡復活プロジェクト】

天竜川鷺流峡復活プロジェクト

#### 【琵琶湖清掃活動】

米原市役所、長浜市役所

### <地域活性化>

#### 【長野県飯山市活性化活動】

いいやま雪まつり実行委員会

#### 【岡山県備前市日生諸島活性化活動】

備前市役所、備前市里海里山ブランド推進協議会  
withICM、一般社団法人備前観光協会、一般社団法人み  
んなでびぜん、日生町漁業協同組合

#### 【新潟県関川村活性化活動】

関川村役場、関川村IVUSA後援会、谷人倶楽部

#### 【三重県熊野市地域活性化活動】

熊野市役所、熊野市観光協会、有限会社赤倉水産、糸川  
屋製菓株式会社、特定非営利活動法人あそぼらいつ

### <災害救援>

公益財団法人日本財団、DRTJAPAN、一般社団法人  
OPENJAPAN、DEFTOKYO、BorderlessFire、キーン・  
ジャパン合同会社、共同ネットワーク株式会社、熊本県  
球磨郡球磨村神瀬地区

### <子どもの教育支援>

#### 【泉大津おおつっこミラサポ】

泉大津市役所

#### 【大津市中三学習会】

大津市役所

#### 【京田辺スタサポ】

京田辺市役所

#### 【新潟県長岡市双葉寮オンライン学習支援】

新潟県長岡市立双葉寮

#### 【だいが地域活動若者応援隊】

京都市役所醍醐支所

### <その他の活動>

#### 【職コン】

ヤマトホールディングス株式会社、ロングライフホール  
ディング株式会社、近畿環境保全株式会社、三菱電機株  
式会社、株式会社KOKUA

#### 【就活用写真撮影プログラム】

StudioPLUS

#### 【中越自動車学校免許合宿プログラム】

中越自動車学校

順不同、敬称略



# 会計報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
入会金	4,515,000	
学生会員受取会費	23,398,000	
その他の会員受取会費	355,000	28,268,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	6,085,687	
受取寄附金(募金)	496,771	6,582,458
3 受取助成金等		
受取助成金	32,684,505	
受取補助金(業務委託収入)	11,877,485	44,561,990
4 事業収益		
国内及び国外における、国際協力活動、 環境保護活動、地域活性化活動、災害救 援活動、子どもの教育支援活動等の社会 貢献事業収益	4,558,134	4,558,134
5 その他収益		
受取利息	745	
受取配当金	611,528	
雑収入	63,734	676,007
経常収益計		84,646,589
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給料手当	32,294,721	
退職金	618,000	
法定福利費	5,347,343	
人件費計	38,260,064	
(2)その他経費		
その他事業費	17,225,116	
期首商品棚卸高	3,517,329	
期末商品棚卸高	▲ 3,489,062	
その他経費計	17,253,383	
事業費計		55,513,447
2 管理費		
(1)人件費		
役員報酬	1,440,000	
給料手当	1,752,840	
法定福利費	439,092	
福利厚生費	12,376	
人件費計	3,644,308	
(2)その他経費		
賃借費	9,384,020	
旅費交通費	906,546	
車両費	547,134	
通信費	91,418	
消耗品費	831,227	
諸会費	236,000	
租税公課	1,476,809	
支払手数料	308,515	
荷造り運搬費	311,890	
会議費	212,168	
慶弔費	3,290	
水道光熱費	594,425	
減価償却費	0	
図書情報費	189,603	
業務委託費	2,764,719	
リース費	1,012,150	
ネット関連費	1,083,815	
ゴミ処理費	92,277	
その他経費計	20,046,006	
管理費計		23,690,314
経常費用計		79,203,761
当期経常増減額		5,442,828
III 経常外収益		
為替差益	104,969	
経常外収益計		104,969
IV 経常外費用		
為替差損	0	
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		5,547,797
法人税、住民税及び事業税		150,000
当期正味財産増減額		5,397,797
前期繰越正味財産額		78,828,541
次期繰越正味財産額		84,226,338

# 団体概要

正式名称	特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会
所在地	〒156-0051 東京都世田谷区宮坂1-34-4 ザ・アゼリアハウスB-102
代表理事	下村誠
設立	1993年（法人格取得2002年5月）
拠点	本部事務局 三軒茶屋出張所 関西事務所

## ■理事一覧

下村 誠	代表理事
村橋 克則	大正大学教授
風間 穰	東京都議会議員
中嶋 信行	日本マイクロソフト株式会社
赤木 衛	特定非営利活動法人ジェイワイエムエイ理事長 株式会社東京アイデアフォース代表取締役社長
伊藤 章	IVUSA事務局 特定非営利活動法人ボランティア活動推進国際協議会日本理事長
藤本 行和	東京消防庁
阿部 博志	株式会社ダイテックス代表取締役
桑原 望	新潟県長岡市議会議員
伊藤 美樹	株式会社日立製作所
大槻 泰輔	飲食店経営
宮崎 猛志	IVUSA事務局 せたがや防災NPOアクション代表
谷口 純平	副代表理事
高井 洋季	静岡県西伊豆町地域おこし協力隊
■監事	
星 昭良	SPK株式会社

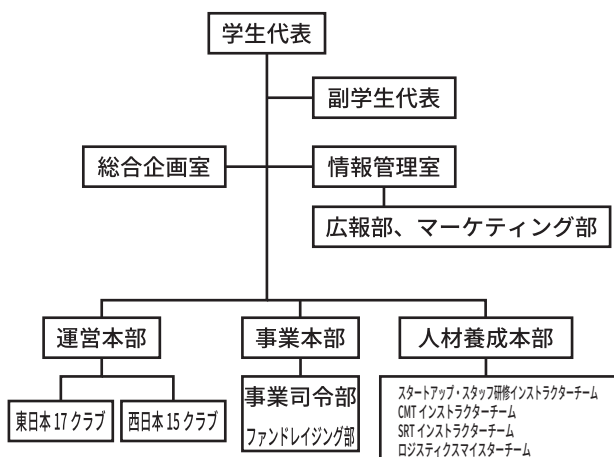
## ■特別顧問一覧

弓削 昭子	法政大学教授・元UNDP駐日代表・総裁特別顧問
小田 兼利	日本ポリグル株式会社代表取締役会長
山村 武彦	防災システム研究所所長
市川 啓一	株式会社レスキューナウ危機管理アドバイザー
朴 宇一	韓国ハンセン氏病患者支援団体「常緑会」代表 Shant amrita chaitanya 僧
池谷 啓	フリーライター
三浦 宏一	一般社団法人世界貿易センター東京理事長
早坂 毅	NPOコンサルタント・税理士
廣渡 謙二	株式会社メディック代表取締役
黒澤 司	公益財団法人日本財団
平田 大六	新潟県関川村前村長
小村 隆史	常葉大学准教授

## ■パートナーシップ一覧

公益財団法人車両競技公益資金記念財団
韓国・GreenNet韓国青少年連盟
中国・ハルビン市科学技術協会
株式会社レスキューナウ
中国青年国際人材交流中心
各地区青年連合会・共産党青年団各地区委員会
千代田区社会福祉協議会
日野市社会福祉協議会
京都府丹後広域振興局
新潟県関川村
静岡県西伊豆町
茨城県古河市
三重県熊野市
岡山県備前市

# 学生組織図



学生代表	北野 裕也	中央大学
副学生代表	正山 つぐみ	龍谷大学
情報管理室長	中 遥加	龍谷大学
総合企画室長	浅見 創太郎	日本大学
運営本部長	正山 つぐみ (兼務)	
副本部長	松井 慎太郎	日本大学
副本部長	美濃部 研	立命館大学
事業本部長	勝俣 瑞歩	中央大学
副本部長	三田 和佳	立命館大学
人材養成本部長	角田 和真	立命館大学
副本部長	庄司 榛己	法政大学



熱意は人を動かし、社会を動かす®

<https://www.ivusa.com/>

2021年9月

発行・編集：特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail [ivusa-office@ivusa.com](mailto:ivusa-office@ivusa.com)